

た ち ば な 新 聞

発行所 宝清寺
〒197-0821
東京都あきる野市小川101
電話 042-558-2663

おかげさまで100号

創建四〇〇年余宝清寺の歴史を振り返って
第二十六世住職 石井 前琮

平成二年九月二十三日に師父 體院院日延上人が遷化したことを機に、二十七年間国語科の教員として奉職した吉祥女子中・高等学校を退職し、当山第二十六世の法灯を継承致しました。師父の葬儀・小住の入寺式・師父の一周忌の法要を勤めるなどの行事が終わり、やや落ち着いた一年半後の平成四年春彼岸にお檀家の皆様に出るだけのお寺の情報提供しご理解頂き、心の通った交流がはかれる場になればと願って、第一号を発刊しました。そして一度も滞ることなく、今号で一〇〇号を迎えることが出来ました。二十五年間の歩みを振り返ると、前半は山門・休憩所

25 年 間 の 歩 み	
平成四年	客殿改築 本玄閣 山門新築
平成六年	本堂裏石垣工事 裏門・駐車場整備
平成十年	休養所・東屋 たちばな会館完成
平成十一年	墓地特選区完成
平成十四年	水谷庵改築
平成十六年	墓地七・八区画完成
平成十七年	日蓮聖人遺訓・住職 法話連載開始
平成十八年	四天王銅像建立
平成二十年	七面堂彫刻設置
平成二十一年	永代供養墓・睡蓮堂 完成
平成二十二年	八幡大菩薩像勧請
平成二十三年	淨行堂給馬完成
平成二十五年	住職監修 法華座 談話講義出版
平成二十八年	蓮華堂完成

住職ひと口法話 第五十回

現代社会は、人間の限界を超えた超情報化社会と超大量生産経済が到来し、身近に情報やモノが溢れています。それらを精査し独自の視点で生きていかなければならない現代人にとって、「自分のやりたいこと」「自分は何をすべきなのか?」といった問いにより、慎重にならざるを得ない状況に、より重要な局面が昔に比べて多々あるのではないのでしょうか。

現代社会は、何をすることも「忍耐」が必要不可欠です。「忍耐はあなたにゆかなければならない者」として、満ち足りた心の安らぎをもたらす鍵である「オク・マンデー」(「逆境にへこたれない忍耐」と前向きな気持ちがあれば、光明が見えてきます」(松本謙一)など名言も多く残されています。

近年ご家族で参列される方が増え、昨今は本堂に入り切らない状況でした。今後はより多くの方に参拝していただきたく、本年度より八月にも同法要を執り行うことにしました。

檀家筆頭総代の飯田恭之氏が本年二月二十二日に逝去されました。長きに亘っての護持丹誠に對しまして、心から御悔やみと御礼を申し上げます。

日蓮聖人伝

救免と帰省

日蓮聖人は、一二六一(弘長元年)五月十二日、伊豆の国(現在の静岡県伊東)へ流罪とされてしまいました。これが四大法難の二つ目、伊豆法難です。幸いにも川奈に住む漁師夫妻にかくまわれ命をつないだ聖人は、難病に苦しむ地頭、伊東八郎左衛門を介して折檻によって全快させたことにより伊東一門は法華経に帰依することとなり、伊東氏の外護を受けながらの配所生活を送りました。この地で聖人は「教機時鈔」(きょうきしご)を著され、そのなかで、法華経こそが末法の世を救うための経典であることを「五義(五綱の教判)」によって論証されました。伊豆に流罪されてから一年九ヶ月が

過ぎた頃、北条時頼の配慮によってようやく救免になりました。聖人を無実の罪におとしられた極楽寺の北条重時は、流罪を執行した翌月に突然の病に倒れ発狂して苦しみがら亡くなりました。また、子供である執権長時も一年後に三十五歳の若さで父の後を追うように原因不明の病で亡くなりました。

活を強いられました。そんな中、故郷(千葉県鴨川市小湊)で暮らす母(梅菊)の危篤の知らせがあり、「立教開宗」以来十二年ぶりに聖人は帰郷しました。が時すでに遅く、たつた今息をひきとったことを聞かれました。直ちに蘇生祈願の曼荼羅を願願し、至心に法華経を誦誦して母の蘇生を祈ると氣息を整えて蘇生しました。その後四年間延寿されたといわれています。

《堀 光稔さん》
羽村駅より徒歩三分にあるヘアサロン「ヘアメイク クリッパー」のオーナー堀光稔さん。とても落ち着いた雰囲気の中、ゆつくりと贅沢な時間を過ごせました。キャリアの長いスタイリストがお客様に合わせてカウンセリングからお仕上げまで、心のこもったおもてなしを提供しています。イケメンの息子さんは今年からピカピカの小学生です。ぜひ、お近くの方は一度体験されてみてはいかがでしょうか。

現代の葬儀を考える

急速に進む少子高齢化で、二〇五〇年には人口の約四割は六十五歳以上になることが指摘されている中、昨年からお寺への問い合わせの中で、「自分が万が一の時、具体的な葬儀費用はいくら準備しておけばよいか」、「子や孫の為になるべく葬儀費用をかせずに葬儀をしてもうことは可能か」という不安の声が増えています。そこで、今号では葬儀費用について紹介させていただきます。

故人の為に葬儀はしたいという気持ちがあっても、葬儀費用のことを考えると悩まれる方が多いのが現実ではないでしょうか。そこで当寺では、死後の世界に見立て早く成仏できるようにという仏教思想から造られた白木祭壇をこの費用用意しました(下記写真)。その他の費用において最大限軽減し、当寺会館で葬儀を行った場合のお布施を含めた葬儀費用の平均は現在ですと「約一三五万円」となります。各葬儀社の互助会に加入されている方も、契約内容によっては負担が減る場合があります。詳細については、当寺副住職までお問い合わせ下さい。

《大募集》
引き続き、お檀家さんとのつながり向上のため、「私、今こんなことしています」の情報をお待ちしています。お気軽に寺務所までご連絡下さい。

《大募集》
引き続き、お檀家さんとのつながり向上のため、「私、今こんなことしています」の情報をお待ちしています。お気軽に寺務所までご連絡下さい。

まず葬儀費用とは、葬儀基本費(祭壇や人件費等)、車両費、火葬関係費、斎場費、返礼品代、飲食代、お布施をまとめたものです。二〇一四年一月に財団法人日本消費者協会が行った「葬儀についてのアンケート結果」によると、葬儀にかかった費用の合計金額の平均は、「約一九〇万円」となっています。

大切なお別れの儀式を行うことが遺族の大きな負担となつては、これからの時代益々家族や縁のある方々とのつながりを遠ざけてしまう恐れがあること

皆様へお届けしてまいります。日蓮聖人のご遺文(現代語訳)に「味方よりも強敵が自分を育ててくれるなり」(種々御振舞御書)

今一回一〇〇号という節目を迎え、感謝の念を込めまして、カードタイプのお守りを用意致しました。これは開運・家内安全・交通安全・身体健全・良縁祈願のご祈禱をしたお守りです。